

序

この報告書は、（公財）中部産業・労働政策研究会が第7期（2017年9月～2018年8月）に行なった年度調査研究「職場の競争力向上に向けたマネジメントとリーダーシップ」についてまとめたものです。

昨今「働き方改革」の中で、競争力のある強い職場づくりのためには、管理監督者はマネジャーもしくはリーダーとしての役割を發揮することが必要で職場運営のキーパーソンであります。現実にはプレイングマネジャーとしても多忙であり、職場メンバーの指導や育成、コミュニケーションなどの時間を確保するのが難しい状況でもあります。

そこで、本調査研究では、上司と直属の部下それぞれについて意識調査を行い、認識の違いの内容等を分析し、職場の競争力向上に向けたマネジメントとリーダーシップのあり方に向けて取り組む課題を考察しました。本報告書は、まずアンケート調査の概要と集計結果を記し、その後に分析と提言をまとめました。本書の提言が各企業の労使の方々にとって、職場の競争力が向上する一助になれば幸いです。

報告書の作成にあたっては、研究主査を務めていただいた立命館大学の高橋潔教授、早稲田大学の村瀬俊朗准教授に多大なるご尽力をいただきました。また、調査にあたっては、中部地区の賛助会員企業労使からなる「専門委員会」での活発な議論や貴重な助言をはじめ、アンケートの回答に際しても多数の方々にご協力をいただきました。この場をお借りして皆さまに心から御礼申し上げます。

2019年4月

公益財団法人 中部産業・労働政策研究会

理事長 鶴岡 光行